

「或時上人語りて曰はく、『我に一つの明

言あり、我は後生資たすからんとは申さず、只現世に有るべき様にて有らんと申すなり。聖教しやうぎやうの中にも行すべき様に行じ、振舞ふべき様に振舞へとこそ説き置かれたれ。現世にはとてもかくてもあれ、後生計げかり資たすかれと説かれたる聖教は無きなり。仏も戒を破つて我を見て、何の益かあると説き給へり。仍ようて阿留辺あるべきやう幾夜は字和と云ふ七字たもを持つべし。是たもを持つを善とす。人のわろきは態わざとわろきなり。過あやまちはわろきに非ず。悪事をなす者も善をなすとは思はざれども、あるべき様にそむきてまげて是をなす。此の七字を心にかけて持たもたば、敢あえて悪しき事あ有るべからず』と云々」と。